

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	通信会社（社員）	・携帯電話の新機種、新サービスを間もなく開始する。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・これから年末に向けて、トレーサビリティ（生産流通履歴管理）の導入等により、顧客に安心、安全を訴えることができる。
		百貨店（営業担当）	・福井豪雨の3か月後には、客の購買動向も若干回復するとみる。
		百貨店（営業担当）	・猛暑が長期的に続けば、夏物商品は引き続き好調に推移する。さらにアテネオリンピックという大型イベントがあるため、液晶テレビを含めた家電商品の買い換え需要が顕著になる。
		スーパー（店長）	・食品の1人当たり買上点数は6月の8.4から7月の8.6へ増加傾向を示している。
		衣料品専門店（経営者）	・当商店街で新しい店舗や再開の店舗がオープンするため、確実に良くなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・新しいコンセプトを持つワゴン車が発売された。従来になかったマーケットを開拓できるというプラス面があり、販売台数や売上に寄与すると期待している。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・猛暑の到来により、殺虫剤、虫除け、虫さされ、日焼け止め、制汗剤などの商品が前年の150%の伸びを示しており、先行きもやや明るい。
		観光型旅館（経営者）	・夏休み期間中の予約人数は順調で、また10月はスポーツやレクリエーションなどがあるため更に良くなる。
		タクシー運転手	・地元では美術館のオープンなど種々のイベントが企画されており、人出が期待できる。
住宅販売会社（従業員）	・本来の請負住宅に加えて、値打ち感の出せる分譲住宅も手がけたため、この効果が出始めている。		
変わらない		一般小売店〔鮮魚〕（店長）	・近くに競合店がオープンしたため、周辺の他店を含めて値下げ競争がエスカレートし、安い商品を求めて客の買い回りが続く。
		百貨店（売場主任）	・若い人はそうでもないが、50歳以上のミドル、シニア層の買い手が非常にシビアになっている。今後良い物は売れるが、量的にはそれほどでない。
		百貨店（営業担当）	・婦人ファッションは夏物と同様に、冬物コート類の立ち上がり前の前倒しが予想される。例年に比べてコートが早めに動けば、単価アップが期待できるが、客の慎重な買物行動は引き続き変わらない。
		スーパー（総務担当）	・猛暑の影響から、商品内容が冷たい物に変わっているだけで、今後単価は上がり、売上も伸びない。
		スーパー（営業担当）	・消費税の総額表示の導入で単価を下げたままであるが、これは来年の3月まで変わらない。催事やイベントなどによって、単価や来客数が増えることはない。
		スーパー（副店長）	・夏物バーゲンと猛暑が重なり、一時的に好調であったが、豪雨被災のせいか、また節約志向が出てきたようにみえる。
		家電量販店（経営者）	・パソコン及びパソコン周辺機器は全く不調であり、猛暑やオリンピック特需が終わった後の見通しは甘くない。
		家電量販店（店長）	・2、3か月先でもデジタル家電の販売が見込めるため、現状は変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・高額商品の需要が回復するにはまだ時間がかかる。
		乗用車販売店（経理担当）	・福井豪雨の影響で車の代替需要はあるが、新車の需要はそれほど期待できない。
		乗用車販売店（経理担当）	・新型の小型車が8月に登場するため、販売台数はかなり期待できる。ただ、単価が低いことと、県内では小型車があまり伸びていない点が懸念材料である。
		住関連専門店（店員）	・当店の主力取扱商品は耐久消費財のため、家族での来店客が多い。従って、土、日曜日を中心に催事を組んでいるにもかかわらず、最近では家族連れの客の減少が目立つ。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・中国の影響でナフサが品薄となり、ガソリン価格が高くなっている。猛暑で需要も5%以上は増えているが、ガソリンスタンドは構造的競争で価格転嫁ができず、この状態はまだ数年は続く。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・景気はどん底であるが、ちょっと高い酒や生物が売れるという動きもみられる。

		観光型旅館（スタッフ）	・7、8月の予約保有数が従来になく非常に悪い。これが9、10月にも影響を及ぼす懸念がある。
		タクシー運転手	・深夜帯の仕事がない状態が当たり前になっている。
		通信会社（営業担当）	・例年、携帯電話はお盆までは良いが、お盆を過ぎると来客数が大幅に減少し、売上が落ちる。
	やや悪くなる	設計事務所（職員）	・照会や引き合いの状況からみて、当面は期待が持てない。
		スーパー（店長）	・客単価も底にきており、基本的には変わらない。ただ福井豪雨の影響が大きいので、来客数や単価が若干ダウンする懸念がある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ゲストハウス形式の婚礼施設の開業により、婚礼件数が伸び悩み、前年を下回る見込みである。
	悪くなる	テーマパーク（職員）	・秋の旅行シーズンは団体客の利用割合が高い。個人、グループが比較的順調に伸びても、前年比2けたダウンとなっている団体の予約状況からみて、全体の集客状況はマイナスと予想する。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（企画担当）	・全体的に商品単価が上向き傾向にあるが、このために需要が減少することはない。全体的に右上がりの傾向がみえつつある。
		繊維工業（経営者）	・消費者の商品に求める意識が、ボリュームゾーンから付加価値のあるベターゾーンへとやや変化している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注量が増加基調にある。
	変わらない	金属製品製造業（経営者）	・3か月先の受注状況が現在と変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・射出成型機械製造業界では6、7月に引き合い、成約ともに大きく落ち込んだとの情報があり、ここ3、4か月間は工場の稼働に支障はないが、5、6か月後に影響が出てくる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・本来、秋の新型シーズンに向けて眼鏡の生産が増えるはずであるが、現状はある程度稼働しているものの、3か月先の受注量は減少する不安がある。
		通信業（営業担当）	・デジタル景気、IT化などで全体的には上向き傾向にあるが、個々にみると、電話機の交換などの需要はあるものの、客にコスト意識が強いため、最終的に買い換えを控える客が多い。
		金融業（融資担当）	・県内の種々の業界で、業績悪化企業の吸収・合併の動きが増えており、今後の見通しは不透明である。
	やや悪くなる	不動産業（経営者）	・若干の動きが出ているが、2、3か月先の成約にまでは至っていない。
		司法書士	・福井豪雨の影響で、再建不可能な企業がかなり出てくる。
	悪くなる	建設業（経営者）	・当社では久しぶりに2人の技能者を採用したが、いずれも他社の廃業やリストラによる離職者で、50歳代前半のベテランである。日給で1年契約という良くない条件にもかかわらず応募者があるという現状をみても、業界の先行きに不安が一層募る。
	雇用 関連	良くなる	-
やや良くなる		人材派遣会社（社員）	・派遣料金は低いままで推移しているが、依頼件数は増加傾向にある。
		人材派遣会社（社員）	・求人数は若干の増加が見込める。また、派遣の契約期間がやや長期化している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・アルバイト及び正社員の募集に意欲的な企業が増加している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・7月の求人広告件数はこの3か月間で最も伸びている。8月の求人企画も高い料金にもかかわらず、前年の2件に対し、現段階で既に6件を予定している。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加し、月間有効求職者数は減少傾向にあることから、業種によるバラツキはあるものの、全体的には良くなる。
変わらない		職業安定所（職員）	・非正規型求人が依然として高い割合であり、安定した雇用状態ではない。
やや悪くなる		職業安定所（職員）	・福井豪雨の影響で、企業の休業や廃業が予想される。特に中小、零細企業では厳しい。
悪くなる	-	-	